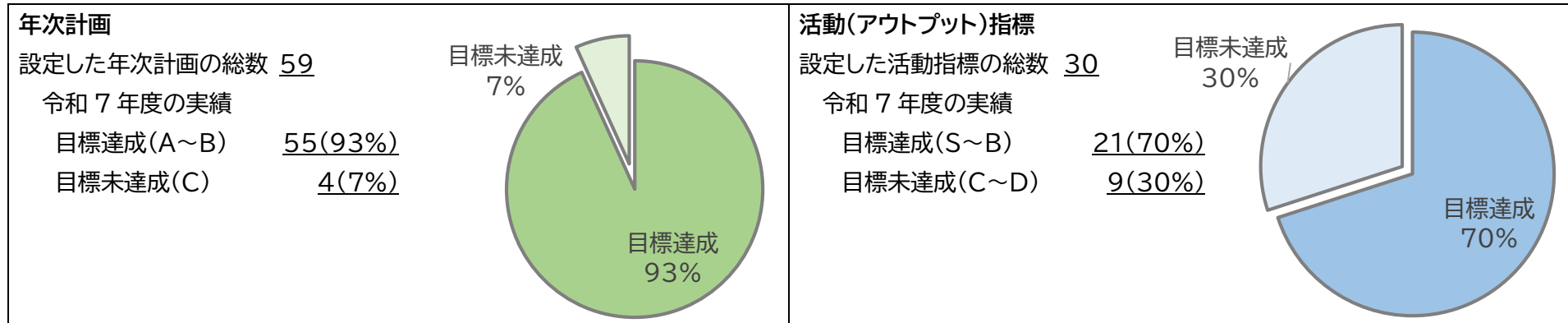


【二次評価】 栗東市 DX 推進計画 令和 7 年度版実績

栗東市 DX 推進計画【令和 7 年度版】の各取組シートに基づく取組実績は下記のとおりとなりましたので報告します。

全体の状況



基本方針ごとの状況

基本方針	年次計画			活動(アウトプット)指標		
	目標達成 (A~B)	目標未達成 (C)	合計	目標達成 (S~B)	目標未達成 (C~D)	合計
基本方針1 行政事務の効率化	33	3	36	11	4	15
基本方針2 市民の利便性向上	22	1	23	10	5	15
	55	4	59	21	9	30

基本方針1 行政事務の効率化

デジタル技術やAI等の活用による行政事務の更なる効率化

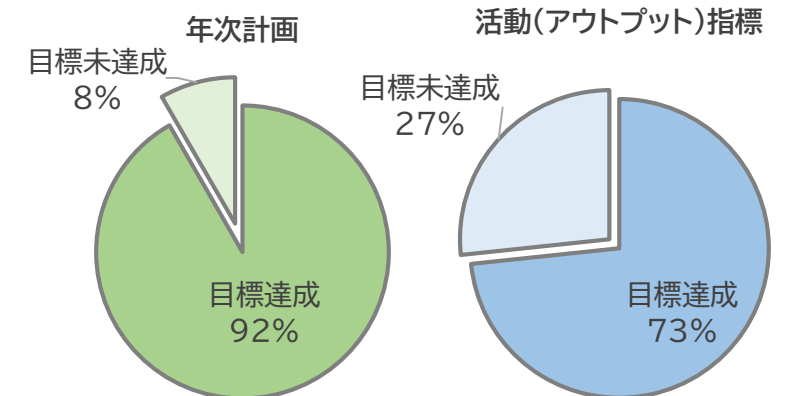
項目名	年次計画			活動(アウトプット)指標		
	目標達成 (A～B)	目標未達成 (C)	合計	目標達成 (S～B)	目標未達成 (C～D)	合計
スマート窓口の推進	7	0	7	2	1	3
デジタルを活用した市税などの収納チャネルの多様化	2	0	2	2	0	2
行政データの公開と活用の推進	2	1	3	0	2	2
事務効率化ツールの利用促進	5	0	5	3	1	4
自治体情報システムの標準化	1	1	2	0	0	0
セキュリティ対策の徹底	2	0	2	1	0	1
情報弱者への配慮(デジタルバйд対策)	2	0	2	1	0	1
スクラップ＆ビルドによる事務事業見直し	2	0	2	0	0	0
施策や事業の成果の「見える化」	2	0	2	0	0	0
情報発信ツールの活用	1	0	1	1	0	1
多様で柔軟な職場環境づくり	6	0	6	1	0	1
専門的な知識を持つ職員の育成	0	0	0	0	0	0
外部人材の活用	0	0	0	0	0	0
安定した人事管理運営	1	0	1	0	0	0
特定テーマについて外部有識者の助言を受ける仕組みづくり	0	1	1	0	0	0
合計	33	3	36	11	4	15

一次評価

個別の取組における年次計画は概ね計画通り実施ができている。
活動(アウトプット)指標では、生成AIの活用や専門的な知識を持つ職員の育成に関して計画を上回る成果を出すことができている。引き続き組織全体の機運を高め、先進的なデジタル技術を積極的に活用できる職員を増やしていく必要がある。
いっぽう、行政手続きのオンライン化やAI-OCR・RPAの活用に関しての取組は目標に達しておらず、導入しているツールの横展開や周知に課題がある。また、標準準拠システムへの移行が延期となっており、移行の着実な完了に向けた対応が求められる。

二次評価

評価がアウトプット(活動指標)中心で、アウトカム(成果指標)が把握できておらず、PDCAが回りにくい点は課題である。生成AIの活用やデジタルバйдへの対応についても改めて検討し、アウトカムとして何をを目指すのか精査する必要がある。
また、評価がCとなっている事業については、停滞要因を確認のうえ、内容および今後のスケジュールを見直し、着実に検討を進めることが求められる。
DXの推進にあたっては、市長がリーダーシップを発揮し、全体を整合させながら、組織横断的に取り組まれることを期待している。



基本方針2 市民の利便性向上

自らが担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用した、住民の利便性の向上

項目名	年次計画			活動(アウトプット)指標		
	目標達成 (A~B)	目標未達成 (C)	合計	目標達成 (S~B)	目標未達成 (C~D)	合計
子育てしやすいまちをつくる	12	0	12	6	3	9
住みよいまちをつくる	4	0	4	1	0	1
安心して働けるまちをつくる	4	0	4	3	0	3
選ばれるまちをつくる	2	1	3	0	2	2
合計	22	1	23	10	5	15

一次評価
個別の取組における年次計画は概ね計画通り実施ができています。 活動(アウトプット)指標では、生成 AI の活用や専門的な知識を持つ職員の育成に関して計画を上回る成果を出すことができています。引き続き組織全体の機運を高め、先進的なデジタル技術を積極的に活用できる職員を増やしていく必要がある。 いっぽう、行政手続きのオンライン化や AI-OCR・RPA の活用に関しての取組は目標に達しておらず、導入しているツールの横展開や周知に課題がある。また、標準準拠システムへの移行が延期となっており、移行の着実な完了に向けた対応が求められる。
二次評価
地方創生懇談会で評価を実施

